

## 第3期ロジスティクス環境会議 第1回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2008年6月26日（木） 15：00～17：05

II. 場 所：東京・港区 浜松町東京會館 パールルーム

III. 出席者：19名

IV. 内 容：

1) 第3期の活動について

(1) 環境会議のこれまでの取り組みと第3期の活動イメージについて

(2) 組織体制について

(3) 研究会、委員会、ワーキング等の活動について

(4) グリーンロジスティクス推進週間/月間（仮称）について

(5) 2008年度スケジュールについて

2) 第1回本会議について

V. 開 会

事務局の徳田専務理事より開会が宣され、第3期活動においても、委員の皆様にご協力いただきながら、大きな成果を出したい旨の挨拶がなされた。続いて、杉山委員長、増井副委員長、牛込副委員長を紹介した後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 委員紹介

委員各位による自己紹介が行われた。

VII. 報 告

1) 第3期の企画概要、及び設置委員会について

事務局より、資料2-1、2-2に基づき、第3期の企画概要、及び設置委員会について説明がなされた後、資料1に基づき、第3期の申込状況等について説明がなされた。

【主な意見】

委 員：第3期に継続参加していない企業も見受けられるが、退会原因等を分析していれば教えていただきたい。

事務局：すべての退会企業から話を聴いているわけではないが、現状把握している中では、①航空、海運会社については、環境会議の検討テーマと自社の課題等が合致しないことが要因による退会、②遠方地（東京以外）企業については、時間・旅費等と環境会議のメリットを比較した結果、第3期の参加を見合わせるといったことがある。

委員長：「航空会社、海運会社が環境会議の検討テーマと合致しない」について、具体的に教えていただきたい。

事務局：参加メンバーからは、エコドライブ等のトラック輸送に係る事項や「鉄道へのモーダルシフト」といった要望が多いため、海運や航空を検討テーマとして取り上げることができなかった経緯がある。

VIII. 議 事

1) 第3期の活動について

(1) 環境会議のこれまでの取り組みと第3期活動のイメージについて

事務局より、資料3-1に基づき、第1期からの活動の変遷と第3期の活動イメージについて

説明がなされた。主な意見は以下のとおりである。

#### 【主な意見】

(環境会議としての活動成果について)

委員：第2期の企画運営委員会でも検討していたが、「環境会議に参加したことによって、CO<sub>2</sub>がこれだけ削減できた」といったことを出すことで、環境会議そのもののアピールとともに、我々の活動を評価する際にも活用できるのではないかと考える。

事務局：本日の資料では明確に記載していないが、省エネ法の定期報告書調査やグリーンロジスティクスチェックリスト調査を通じて、環境会議の活動前後でのCO<sub>2</sub>や取り組み項目数の変化を把握する予定である。

(現状の外部環境等を踏まえた再整理について)

委員：第2期からの延長線上で活動を進めることも重要であるが、現在の外部環境の急激な変化に対して、現状分析を行い、どのような方向性で取り組みを進めるべきかといったことを環境会議として検討、発信することも必要ではないかと考える。

委員：第1期は、CO<sub>2</sub>に加えて、リバースロジスティクスや省資源といったテーマで検討を進めてきたが、省エネ法の施行等を受けて、第2期以降CO<sub>2</sub>を中心に検討を進めている。あらためて全体を再整理した上で、テーマ検討することが望ましいのではないかと個人的に考える。

委員：グランドデザインは環境会議の設立時に策定されたものであり、現状と合致しない部分が出てきていると個人的に考える。WGのテーマ例にあがっていた「グランドデザインの改訂」を通じて、各委員からご指摘いただいた内容を検討していくことができるのではないかと考える。

委員長：資料3-1にある未着手領域の検討を進めながら、各委員からご指摘いただいた部分の再整理が必要だと考える。さらに、それらをグランドデザインの改訂の中に落とし込めればと考える。

(その他)

副委員長：環境問題は一般的な問題になっている。したがって、第3期では「グリーン物流を社会・世間に問いかける」といった活動も進めていくべきだと考える。

(2) 組織体制について

事務局より、資料3-2に基づき、組織体制（案）について説明がなされ、全会一致で承認された。

(3) 研究会、委員会、ワーキング等の活動について

事務局より、資料3-3に基づき、研究会、委員会、ワーキング等の活動概要（案）について説明がなされた。続いて、研究会の幹事、各委員会の委員長より下記説明がなされた後、以下の意見交換が行われ、了承された。

i) グリーン物流研究会

グリーン物流研究会の幹事である下村委員より、①人的交流の活性化を目的として、第1回研究会で名刺交換会を開催した、②今後もメンバーのみならず、メンバー外に対しても積極的に情報発信していく旨の説明がなされた。

ii) 包装の適正化推進委員会

包装の適正化推進委員会の委員長である増井副委員長より、①当初の委員会名称案は「包装の削減」であったが、包装材を単に減らすだけではなく、商品設計まで含めて考えることが必要であることから、「包装の適正化」という名称にした、②「包装材の帰属の問題」や「処理の際の取扱が自治体によって異なる」といった様々な問題があるが、あるべき姿を描きながら検討を進めていきたい旨の説明がなされた。

iii) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

グリーン物流推進のための取引条件検討委員会の委員長である山本委員より、「第2期と比べ、参加人数、業種数も増えており、かつ各人が抱えている課題が異なることから、少し時間をかけながら検討対象を決定していきたい」旨の説明がなされた。

【主な意見】

副委員長：第1期の活動当初に、各社でどのような取り組みを行っているか調査を実施している。

それらの結果と、今回実施するチェックリスト調査の結果を比較検討していただきたい。

事務局：項目の整合性が取れる範囲で、ぜひ実施したい。

(4) グリーンロジスティクス週間/月間（仮称）について

事務局より、資料3-4に基づき、グリーンロジスティクス週間/月間（仮称）について説明がなされた。主な意見は以下のとおりである。

【主な意見】

(週間/月間の意義について)

委員：“活動の実施”よりも“普及啓発”という位置づけで理解すればよいか。

事務局：ご指摘のとおりである。

委員：資料3-4で「普及活動が十分になされていない」とあるが、具体的にどのようなことか教えていただきたい。

事務局：第2期第3回本会議で課題としてあがったことである。例えば、第2期活動において、グリーンロジスティクスチェックリストを策定したが、活用の段階まで実施することができなかった。

委員：アウトプットの配布やホームページの掲載、メールマガジンでの情報発信といったことで、ある程度普及方策を実施していると考ええる。それよりも、アウトプットがなぜ活用されないのか、なぜ環境会議メンバー数が増えないのかといったことを考えていくことが重要ではないか。その点を曖昧にしたまま、広報活動を実施しても意味がないのではないか。

委員：イベントについては、本会議を含めると複数回実施しており、あらためて実施することに対して疑問を持つ。

委員：グリーン物流パートナーシップ会議がある以上、普及活動はそちらに委ねるべきであり、あらためて環境会議で実施する必要はないのではないかと考える。

(消費者への啓発について)

副委員長：環境負荷低減活動に取り組む企業を増やすことも重要であるが、消費者にグリーン物流を理解いただくことの方が非常に重要だと考える。したがって、消費者に啓発を行う週間にすべきではないか。

事務局：最終的には消費者をターゲットにすべきだと個人的に考える。しかしながら、これまで策定してきたツールは企業を主対象としており、消費者を対象にしたものがない。したがって、委員会もしくはワーキングでそれらを策定した後、消費者を対象とした啓発活動を実施すべきと考える。

(事務局の想定イメージ)

委員：資料3-4では、対象が曖昧である。このまま実施しても効果がないと考える。

委員：事務局として、素案があれば教えていただきたい。

事務局：対象は環境会議メンバー企業であり、またメンバー企業のグループ会社や取引先である。週間期間中にメンバー企業の事業所等で10人から数十人程度を集め、グリーンロジスティクスに関する勉強会を開催いただくとともに、簡単な結果レポートを作成いただき、事務局に報告いただく。事務局ではそれらを集計するとともに結果報告書を作成する。仮にメンバー企業1社平均50名の方が参加すれば、メンバー企業100社で5,000名の方が週間期間中にグリーンロジスティクスについて理解を深めたことになり、その人数とともに、

環境会議メンバー企業 100 社が環境対応の先進企業として啓発を行ったということを産業界にアピールすることで、結果として環境会議メンバー企業のプレゼンスをあげることを想定している。

副委員長：QCサークルのような形に近い印象を受けた。例えば、各企業にサークルのような形で登録いただき、そのグループに環境会議で開発したツールを提供して活用いただき、結果をみて優秀な取り組みを表彰するといったこともできるのではないだろうか。時間をかけて検討してはいかがか。

委員：当社においても、グループ会社への意識づけは重要な課題になっている。しかしながら、先ほど意見があったとおり、消費者に理解を求めることが最終目標になると考えるので、少し時間をかけて検討してはどうか。

委員：趣旨は理解できたが、勉強会を実施するためには、ツールの準備が不可欠である。ツールを作る際には、対象を定めておく必要がある。

委員：ターゲットによってツールも異なる。それらを整理した上で、来年度の実施に向けて検討を進めてはどうか。

委員長：事務局の考えは面白いと思うが、もう少し時間をかけて、検討を進めてはどうかと考える。  
(その他)

委員：環境会議で策定してきたグリーンロジスティクスガイド等はいへん参考になるが、読むだけでは理解が難しい部分もある。したがって、講演等をネット配信で見られるようにしていただけるとはいへん有意義だと考える。

#### 【決定事項】

- ・ グリーンロジスティクス週間/月間（仮称）については、再度企画運営委員会等で議論を行うこととし、第1回本会議では提案しないこととする。

#### (5) 第3期のスケジュールについて

事務局より、資料3-5に基づき、第3期のスケジュール（案）について説明がなされた。主な意見は以下のとおりである。

#### 【主な意見】

委員：省エネ法の定期報告書、計画書調査のスケジュールを早めることが可能かどうか教えていただきたい。

事務局：「第1回本会議で、メンバーに対し調査の依頼をする」ということを想定してスケジュール案を策定している。その制約がなければ、調査実施時期をある程度早めることは可能だと考える。

委員：調査票に回答いただくのではなく、計画書及び報告書の原票のコピーを収集すべきだと考える。

委員：昨年度のCO<sub>2</sub>削減推進委員会で検討したが、原票のコピーの提出に抵抗がある企業も多く、調査票形式で実施した経緯がある。

委員：回答企業が特定されない形で集計を行うので、原票のコピーやフォーマットデータでいただけるように依頼してはどうか。

#### 【決定事項】

- ・ 事務局において、第1回本会議前に調査を開始できるかどうか検討する。
- ・ 定期報告書、計画書のフォーマットデータ、もしくは原票のコピーを提出いただくように依頼する。

#### 2) 第1回本会議について

事務局より、資料4-1、4-2に基づき、第1回本会議の次第（案）について説明が行われた。主な意見は以下の通りである。

### 【主な意見】

副委員長：環境省や農林水産省からも施策動向を紹介いただくことはできないのか教えていただきたい。

事務局：議事の部分に時間がかかることから、資料4-1では経済産業省、国土交通省のみとしていたが、先ほどの決定したとおり、「グリーンロジスティクス週間/月間」については本会議で提案は行わないことから、環境省、農林水産省にも施策を紹介いただく時間を取ることは可能である。

### 【決定事項】

- ・ 行政施策動向の紹介において、農林水産省や環境省にも発表の依頼を行うこととする。

### 3) その他について

#### (1) 情報提供活動について

事務局より、資料5-1に基づき、グリーンロジスティクスガイド第2版について、及び資料5-2に基づき、第2期委員会活動成果発表会について説明がなされ、了承された。

#### (2) 意見・要望について

事務局より、資料6-1に基づき、省エネ法に係る意見・要望書について説明がなされた。続いて、資料6-2に基づき、鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について現状報告がなされ、以下の意見交換の後、了承された。

### 【主な意見】

(鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について)

委員：1 民間企業の立場で考えれば、文書を受け取ることができないということは理解できないことではないが、我々は要望に対する回答を求めているわけでもない。したがって、例えば文書の宛先を変更する等により、文書を受け取っていただけるように調整したい。

事務局：本件については、CO<sub>2</sub>削減推進委員会 モーダルシフトWGのメンバーであった増井副委員長、高松委員、麦田委員を中心に検討を進めてきた経緯もあり、今後も3名と相談しながら対応していきたいと考える。

#### (3) その他

事務局より、資料7に基づき、経済産業省の調査を受託した旨の説明がなされ、企画運営委員の一部の方にも委員としてご協力いただきたい旨の説明がなされた。

続いて、下村委員より、グリーン物流をテーマとした書籍発行について説明がなされ、その中で環境会議の活動を引用したい旨の提案がなされ、了承された。

## IX. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以 上